

諫早市教育委員会議事録
令和4年第1回（1月定例）

令和4年第1回（1月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和4年1月28日（金）
13時30分～15時00分
- 2 場 所 諫早市役所 8階 会議室8－1
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 宮本 峻光
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 高柳 浩二
教育総務課長 江頭 大一
学校教育課長 有谷 孝彦
生涯学習課長 諸岡 昌史
- 5 議題

議案第1号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び
評価について

議事録署名人の指名

山口委員と中野委員を議事録署名人に指名

議事録の承認

令和3年第13回（12月定例）教育委員会の議事録について
中野委員から自身の発言について修正の意見あり
一部修正を了承の上可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

令和3年度 1月定例校長・園長研修会について

まず、私の今年のテーマとして「挑戦と創造」を設定した。昨今の子どもたちを見ていると、何かに挑戦しつつも、すぐ諦めてしまうという傾向があるように思える。また、先生方についても、子どもたちを信じて、もう少し子どもたちに挑戦させてあげればよいのではないかと思うところもある。何回失敗してもよいので、挑戦し続けることで何かが見え、いろいろなものが造られていくと思っている。例えば学力調査の結果を見ても、最後まで解いていない子どもたちが多く見受けられ、途中で諦めている子、最初から手を付けていない子様々であるが、最後まで諦めずにやること、例えそれが失敗に終わっても、何か得ることができるのではないかと信じている。今年1年、この「挑戦と創造」を事あるごとに発信していきたいと考えている。

次に新型コロナウイルス感染防止対策についてであるが、今、主流はオミクロン株であり、感染力と感染スピードが速く、子どもを含めた若い人の罹患が多いという傾向にある。現在の市立小・中学校の状況については、後ほど各課長報告の中で担当課長から御説明を申し上げる。

次に卒業式について。3月15日に市立中学校、17日に市立小学校の卒業式が予定されている。一昨年・昨年同様、市からは市長、教育長、部長等の出席はなく、市長祝辞と教育委員会告辞は事前に原稿を送付し、卒業式のしおりに一緒に製本することとしている。また、来賓の出席は必要最小限とし、市議会議員の出席についても、市の対応に準じて行うこととし、保護者の出席は、特に制限することは現在のところ考えていない。但し、その時のコロナの感染状況では制限もあり得ると考えている。

次に、「人格を磨けば、学力も上がる」ということで豊かな人間教育を進めていくということ、それから、確かな学力をつけさせること、ICT教育の推進として、ICT教育が全てではないが、授業の組み立ての中で理解を深めるための一つのツールとして活用してほしいと考えている。来年度から家庭でもクロームブックによる学習ができるようにするため、12月議会でインターネット環境が整っていない準要保護世帯等に対してモバイルルーターを貸し出す予算、学校が遠隔授業用で使うWEBカメラ、マイクスピーカー等を整備する予算が認められた。ほとんどの場合、タブレット端末の家庭への持ち帰りを想定しているが、家庭のパソコンの利活用も出来るようにしたいと考えている。

それから、働き方改革について。年末に「諫早版働き方改革」の最終的な詰めができたので、間もなく発信できると思う。試行期間を経て4月から運用したいと考えている。登下校に関する対応や給食費の学校徴収金の徴収・管理など、中教審が上げた4業務について、市やPTA、地域の方々に担っていただき、教職員の負担軽減を図り、教材研究、子どもたちと向き合う時間を創出し、学力向上につなげてほしいと考えている。働くときは働く、休むときは休む。メリハリの効いた勤務、健康あつての仕事ということを管理職から頻繁に発して欲しいと願う。

次に、特別支援教育補助員等について。特別支援教育補助員は、本市独自の制度で現在50名が配置されており、平均して1校1名程度であるが、来年度の予算編成にあたり、厳しい財政状況の中ではあるが、プラス5名の増員要望を行っている。また、スクールカウンセラー、スクール・ソーシャルワーカーは、県の派遣でありが、これに対しても県に増員要望をしている。

次に、12月市議会定例会においての教育関係の主な質疑事項について。特に、中学校の制服、女子生徒のスラックス導入についてということで話題になったが、既に西諫早中学校では導入を決定し、新聞等の記事にもなった。本市が時代を注視しながら、先進的に教

育行政に取り組んでいるものであると感じている。
私からの報告は以上である。

《教育長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

《議題》

議案第 1 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価
について

教育総務課長 説明

《教育総務課長の説明に対する質問・意見》

[委員]

意見が 3 点、質問が 1 点だが、まず 9 ページの中段あたり、不登校対策のために関係機関等と連携を図ったと記載があるが、今、コロナ禍であるため欠席も多いと思うが、それ以前から不登校の子どもは増えてきており、終息することは難しいと考えられるので、是非、私たち教育委員も参加して、現状を先生方から聞いていくということも大事なのではないかと考える。これが 1 点目。2 点目が、10 ページの情報教育の充実というところであるが、先ほど教育長の報告の中で ICT 教育の推進については、子どもたちが理解を深めるための一つのツールであるとおっしゃっていたが、子どもたちが文具の一つとして使っていくことができれば、素晴らしい構想であると考えます。ただ、情報教育に長けている先生、そうでない先生もいらっしゃるのではないかと考えられるので、子どもを取り巻くネット環境がどうなっているかということ、年に 1 回程度は職員研修を行う必要があるのではないかと考える。3 点目が 11 ページ、子どもたちを育てる上で、学校と家庭だけでは抱えきれない部分は社会教育との連携が必要であるため、社会総掛かりで子どもたちを育てる方法として、1 年に 1 回程度、教育委員と社会教育委員の意見交換を行う場を設けてはいかかかと考える。最後に、質問であるが、13 ページの出張学芸員について、9 箇所、延べ 267 名という実績が記載されているが、学校と地域で何回行われたかという内訳を教えてください。

[学校教育課長]

まず、委員からいただいた御意見の 1 つめの不登校対策について、教育委員の皆様にも解決に向けて御参画いただけるとするのは、大

変心強く感じている。その方法については今後検討させていただきたい。2点目の情報教育については、委員がおっしゃるとおり、先生方によって、情報教育を活用する技術に温度差があることは事実である。先生方全員を集めて研修を行うということは難しいかもしれないが、何らか方法を考えて、研修の在り方を考えていきたい。

[生涯学習課長]

3点目の社会教育委員との連携についてだが、社会教育委員からも同様の意見が出ているため、なるべく早い段階で、意見交換を行う場を設けたいと考える。

[事務局]

御質問の出張学芸員の実績内訳については、調べて後ほど御回答する。

[委員]

先般、小野ふれあい会館で開催された校長会・教頭会において、思春期外来の精神科医の先生に講演を行ってもらったが、先生からは、今後年度末・年度始めなど計画していただければ、いつでも協力したいとの申し出があった。

今、若い人たちの外来受診が非常に増えている。先般、看護学校で、尊厳死、安楽死、臓器移植、難病のために死を考えるなど命を扱う講義を行ったのだが、学生の中にも自殺を考えたことがあるという者もいた。SNSの影響も大きいようだが、小中学生は更に影響を受けやすい。影響を受ける前に危険性を伝える教育が必要だと思う。

[教育長]

16ページ5行目、「気づきとしては、『令和2年度諫早市教育施策』の施策項目にはありますが、2年連続（令和元・同2）して確認することができない実践として「特別支援教育の充実」「平和教育の推進」「人権教育の推進」「キャリア教育の推進」などが指摘できます。」という意見があったがどうか。

[学校教育課長]

特別支援教育については、特別支援教育コーディネーターの研修を充実させて、発達障害が見られる児童生徒と関係機関とをつなぐ役割についての研修を行い、理解を深めている。平和教育や人権教育等もしっかり取り組んでいる。キャリア教育も県の指定を受けて取り組んでいるため、説明が足らなかったのかもしれない。また、15ページにある障害児就学指導委員会の名称を、今の時代に合ったものに変えてほしいとの要望を受けて、12月議会で条例改正を行い、教育支援委員会に変更したことを報告する。

[事務局]

先ほどの出張学芸員については、10回計画し9回実施した。1回はコロナ禍の影響で、中止となっている。詳細については、配付した資料でご確認いただきたい。

可決

《学校教育課長の報告》

新型コロナウイルスに係る諫早市立小・中学校の状況について

《学校教育課長の報告に対する質問・意見》

[委員]

3名陽性者が出ると学級閉鎖ということだが、学校閉鎖の判断基準はどうなっているのか。

[学校教育課長]

まず、あるクラスから3名陽性者が出ると学級閉鎖、そしてそのクラスの隣のクラスからまた3名の陽性者が出た場合は学年閉鎖、その学年閉鎖が複数の学年で行われた場合、学校閉鎖を検討していくという流れになっている。

[委員]

中学校においては、入試が始まる時期だと思うが、資料を見ると、ある中学校では2月1日まで学級閉鎖となっている。1月31日は日大附属高校の入試であると思うが、学級閉鎖となっているクラスの子ども達も受験は可能なのか。

[学校教育課長]

可能である。学校によっては、別の部屋で受験させるといった措置も取られている。

[委員]

市から提供してもらったデータを基に諫早医師会のほうで、専門家の意見を聞きながら学級閉鎖等の判断基準を決めたところであるが、幸いにも感染拡大を抑えこんでいる状態である。1月6日に3名、14日に6名、16日に2名、17日に1名、18日が10名、19日が9名、20日が18名、21日が9名、22日が8名、23日が7名、24日が13名、25日が17名、26日が9名、こういったデータが送られてくる訳であるが、今猛威を振るっているオミクロン株であれば、症状的に見て7日間でよいと考えられるが、デルタ株も若干混じっていると思われるものも見受けられるため、大事を取って10日間としている。長崎大学の森内教授から諫

早医師会の方にもメールが届き、クラスで1人陽性者が出たからと言って、他県で見られるように過剰反応し、学級閉鎖等を行うと、子どもたちの学習環境が奪われる恐れがある。また、孤独感、閉塞感にとらわれ、どういう事態が起こるか分からないことから慎重に判断する必要があるという意見をいただいた。また、デスクシールドについては、換気の面から考えると逆効果となってしまう可能性があるため、導入にあたっては慎重に判断するようにとのことであった。

《生涯学習課長の報告》

- 1 令和3年度 諫早市成人式の参加者数について
- 2 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う公民館等の利用制限について

《生涯学習課長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

その他

教育総務課長

2月定例教育委員会の日程及について説明

15時00分閉会